

環境研主要成果

環境研
主要成果

青森県における自然放射線データ

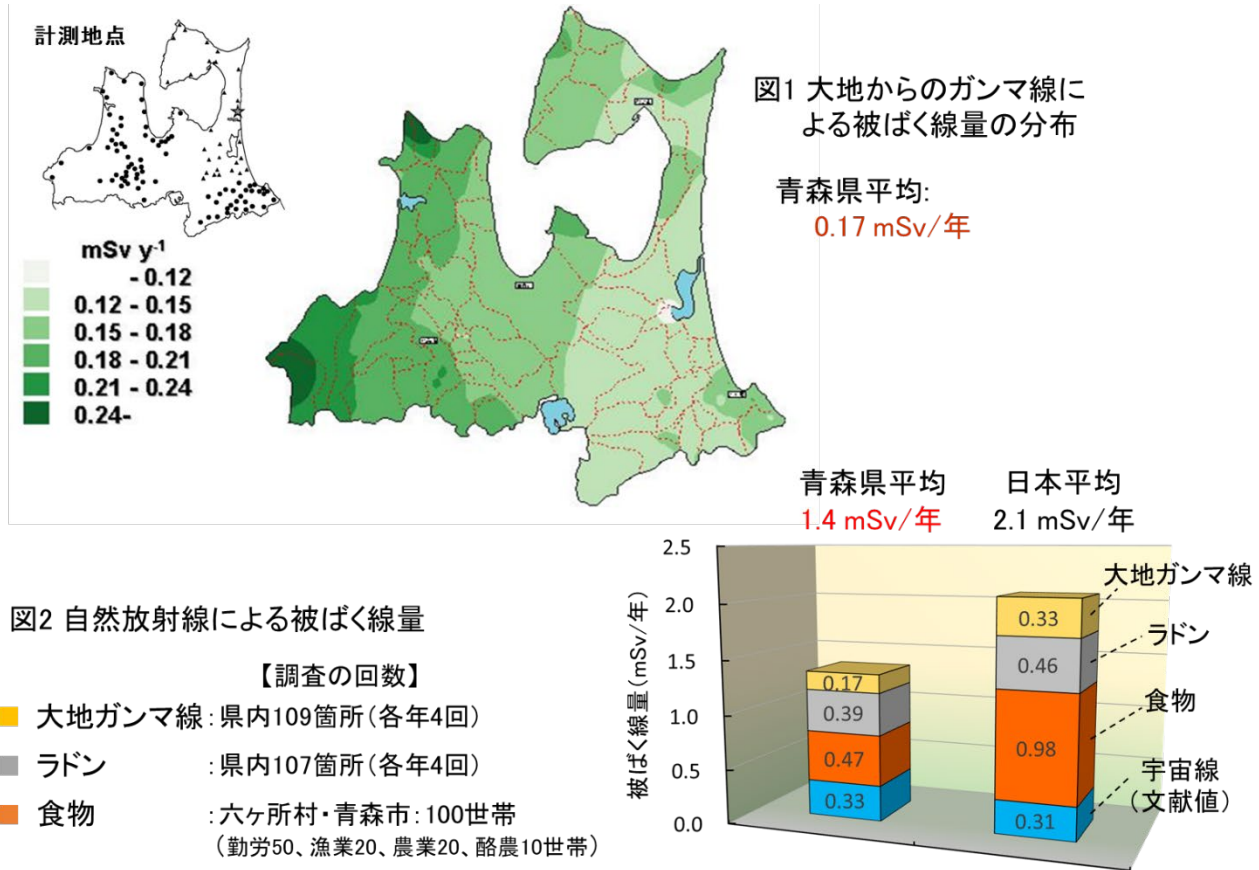


図2 自然放射線による被ばく線量

【調査の回数】

- 大地ガンマ線 : 県内109箇所 (各年4回)
- ラドン : 県内107箇所 (各年4回)
- 食物 : 六ヶ所村・青森市: 100世帯 (勤労50、漁業20、農業20、酪農10世帯)

大型再処理施設の影響を評価するため、平成4年度から平成22年度にかけて青森県内の自然放射線に関する調査を実施しました。平成4年度から平成8年度に大地からのガンマ線による被ばく線量の青森県内分布を初めて明らかにしました(図1)。また、平成8年度から平成10年度に県内のラドン、平成18年度から平成22年度に食品による内部被ばくも調査し、自然放射線による県民の被ばく線量を評価したことで(図2)、施設由来の放射性物質による被ばく線量と比較して、自然放射線の寄与が明らかに大きいことを科学的に理解するための情報を提供できました。

発表論文

Iyogi *et al.* (2002) Environmental gamma-ray dose rate in Aomori Prefecture, Japan. *Health Physics*, 82, 521-526.

Iyogi *et al.* (2003) Radon concentration in indoor occupational environments in Aomori Prefecture, Japan. *J. Environ. Radioact.*, 67, 91-108.

Ohtsuka *et al.* (2013) Daily radionuclide ingestion and internal radiation doses in Aomori prefecture, Japan. *Health Physics*, 105(4), 340-350.